一 好 よ が う ぞう ぞう
三好京三は、旧衣川小学校大森分校などの教育実践に努力した教
師であり、また、直木賞を受賞するなど数々の作品を残した作家で
ある。
三好京三(本名 佐々木久雄)は、一九三一年(昭和六年)、前
沢町に生まれた。「俺は小説を書いて愛と友情と平和の素晴らしさを
日本中の読者に訴えたい。」と心に決めたのは旧制中学二年の夏でし
た。太平洋戦争の終戦から十日ほど経っていた。
京三は、前沢から汽車で一関の旧制中学校に通っていた。その中学
は、終戦後の六・三・三の学制改革で、県立一関第一高等学校にな
り、その二年生に編入された。
京三は、家が裕福でないことは分かっていたので、自分で働いた
お金で大学に行こうと考え、高校を卒業すると、町の役場に頼んで
日雇いの人夫(土木作業や荷物の運搬などで働いて賃金を得て生活
する人)になった。三か月ほど経ったある日、九戸郡の種市町にあ

用する話が来て、一九五〇年(昭和二十五年)、小学校教員になった。そうる中野小学校(現・洋野町立中野小学校)で助教諭として京三を採
翌年の三月に中野小学校の同僚の佐々木京子と結婚する。その時京
子は二十一歳、京三は十九歳でした。 宿戸小学校(現・洋野町立宿 戸
小学校)に転勤してから、岩手日報社発行の公募文芸誌『北の文学』
に小説「聖職」が入選して掲載された。その時のペンネームは笹原
耿二である。その後『北の文学』に小説「断崖」や「返礼」などを とう ビ
発表する。ペンネームは原耿之助と変えた。
藤幸夫の真云で『E周・とと友由』を改つってかっす、幾余がある ^{とすむりは} 教育と小説に熱中していた京三は歌も得意であった。作曲者・安
ごとにそれをひろめていった。そして、岩手日報の小編小説のペー
ジに、小説『正調・北上夜曲』を発表した。
一九六二年(昭和三十七年)四月、京三と京子夫婦は胆沢郡の衣川
村にある衣川小学校の大森分校に転勤した。学区の児童、住民、自
然にほれこみ、以後十四年間在職する。大森分校は僻地(都会から
遠くはなれた田舎)三級に指定された山の中の小さな分校で、授業
は一年生から三年生までと、四年生から六年生までの複々式(二学
年以上の児童からなる学級)で行われていた。京子が低学年を、京
三が高学年を受け持った。

授業を始めて、子どもたちに漢字を読む力をつけなければならない	あった。脚本はすべて京三が書いた。大森分校はこうして今まで以ますときないまで、ますときないた。
と考えた。京三と京子は、画用紙を四つ切にしたカードの一枚一枚	上に活気に満ちた学校に変わっていった。
に、フェルトペンで一年生から四年生までに習う漢字の単語を書き、	一九七〇年(昭和四十五年)、大森地域も過疎化がすすんで、一
そのカードを学年ごとに、廊下に張った針金に洗濯ばさみでとめ、	時は四十名もいた分校の児童数が十五名に激減した。なんとかして
登校時と下校時にカードを最初から順序に読ませた。京三はそれを	活気を取り戻そうと、当時の農民教育長と言われた小坂盛雄氏に頼
「漢字の関所」と名づけた。たちまち、子どもたちは漢字が読める	んで、子どもたちに郷土に伝わる農民の芸能である「御神楽」を伝承
ようになった。	させることにした。放課後や休日になると練習が続けられ、子ども
京三は、子どもたちの話すことばに、おかしな「ふし」があること	たちは汗びっしょりになりながら体得していった。運動会で初めて
も気になっていた。毎朝行う朝会で、教科書や詩を朗読する時間を	披露された時、地域の大人たちは感動して涙を流した。「御神楽」
もうけて、その「ふし」を直していった。こうして、子どもたちは	がテレビで紹介されると各地から習いたいという人たちが大森分校
どこへ行ってもおどおどしない、たくましい子どもたちに育って	を訪ねてくるようになった。
いった。	僻地分校の教育実践にのめりこんでいた京三は、京子の勧めもあ
京三は勤務すると、すぐに『三つの輪』という分校だよりを発行	り、教師の資格をとるために慶応義塾大学文学部の通信教育を受け
して、親と子どもと教師とが心と力を合わせて教育に取り組むこと	た。苦労と努力を四年間続けて、無事卒業した。
を目指した。春には子どもたちを大森山に連れ出して山菜を採り、	京三は、このままでは小説家になるという自分を励まし支えてきた
秋にはきのこを採らせた。夏には親子遠足を企画し、大型バスで海	京子に顔向けができないと思った。京子に「俺はこれから文学の勉
水浴に出かけた。運動会や学芸会は学区民の全員が出るお祭りで	強をやり直して、四十五歳までにはきっとどこかの新人賞をとるか
あった。婦人会の仮装 行 列は運動会で人気を呼ぶ出し物だったし、 いせんかい かそうぎょうれつ	らな。」と宣言した。一九七五年(昭和五十年)三月に『小説新 潮
学芸会での劇は先生と子どもたちの総出演で、さらに婦人会の劇も	新人賞』に応募した作品「兎」が最終候補に残ったが落選した。十

/ 兴川中内初起少じ	117	奥州市内訪ね歩:	キ
------------	-----	----------	---

(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市	四十七歳であった。	月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。	なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三	十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく	一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七	賞」を受賞した。	地教育の業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労なの業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労
三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のたには「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)	ー 九成三好 一日、 二日、 二日、	三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた 、平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市 の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた	日、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。 「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた こが、京三と京子が永年勤 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた	こ好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年(平成元年)に一関市 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。	二、中国、「「「「「「「「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく キ、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。 四十七歳であった。 四十七歳であった。 の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九七八年(昭和五十三年)三 務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年 の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた	賞」を受賞した。 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三 月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。 四十七歳であった。 四十七歳であった。 の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 三好京三は、二〇〇七年(平成一九年)五月十一日、脳梗塞のた
には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)	には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。京三と京子が永年勤格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本	には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 四十七歳であった。	には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。	には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。	には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。 には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。	 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 	賞」を受賞した。 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) には「岩手日報文化賞(学芸部門)」を受賞した。
の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)	の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本	の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成元年)に一関市務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。	の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)として本務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年八十七歳であった。	の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)四十七歳であった。四十七歳であった。四十七歳であった。「真木賞作家三好京三」として本務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年の成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(昭和五十三年)三	の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九七八年(平成元年)に一関市の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九七八年(平成元年)三十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく	の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年)の「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九七七年(平成九年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市(平成十二年)三月に閉校した。	 「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) 『「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) 『「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) 『「文学の蔵設立委員会」会長に任命され、一九九七年(平成九年) 『「大和一年) 三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市 (平成十二年) 三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市 (平成十二年) 三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市 (平成十二年) 三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市 (平成十二年) 三月に閉校した。一九八九年(平成元年) に一関市 (平成十二年) 三月に閉校した。一九八九年(平成元年) [1]
	(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本	(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。	(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年四十七歳であった。 「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。	(平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年四十七歳であった。 四十七歳であった。 の十七歳であった。 で成した。京三と京子が永年勤 なり、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本 なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三	 (平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。四十七歳であった。 (平成十二年)三月に閉校した。「直木賞「を受賞すると急に忙しく十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく 	 (平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市 (平成十二年)三月に閉校した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく +六回「直木賞」を受賞した。「直木賞「を受賞すると急に忙しく や、旅行、行家活動に専念する。「直木賞「を受賞すると急に忙しく や、後は、作家活動に専念する。「直木賞「を受賞すると急に忙しく や、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	 (平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市 (平成十二年)三月に閉校した。「直木賞」を受賞した。 (平成十二年)三月に閉校した。「九七八年(昭和五十三年)三 (平成十二年)三月に閉校した。一九七八年(昭和五十三年)三 (平成十二年)三月に閉校した。一九八九年(平成元年)に一関市
	格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本	格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。	格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。	格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。 四十七歳であった。	格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。 四十七歳であった。 日、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。 四十七歳であった。	格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三四十七歳であった。 四十七歳であった。 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七	格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。四十七歳であった。 四十七歳であった。
務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年	以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本	以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。	以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。	以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本四十七歳であった。月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三	以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく	以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本4.1、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。四十七歳であった。	以後は、作家活動に専念する。「直木賞作家三好京三」として本十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞するとぬに、一九七八年(昭和五十三年)三月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。 四十七歳であった。 四十七歳であった。
務した大森分校は、その後も入学児童がいないために、二〇〇〇年格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤		四十七歳であった。	四十七歳であった。 月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。	四十七歳であった。月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。たいようになり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三	四十七歳であった。 四十七歳であった。 四十七歳であった。	四十七歳であった。四十七歳であった。	四十七歳であった。四十七歳であった。
なり、 Winterference (きわだって目につく) により「岩手県教育功労 地教育の業績顕著(きわだって目につく) により「岩手県教育功労 ために創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤 格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤 格的に創作活動を始め、数々の作品を残した。京三と京子が永年勤 として本	月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。 なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 しんせます。 しんせます。 しんせます。 しんせます。 しんせます。 したのに、一九七八年(昭和五十三年)三 が第七	なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞した。 堂」を受賞した。 ************************************	十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく賞」を受賞した。 「九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 地教育の業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労	一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七賞」を受賞した。	賞」を受賞した。 地教育の業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労	地教育の業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労 ち	
なり、 for the active of the a	月、京三は真城小学校(現奥州市立真城小学校)を最後に退職した。 なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三 なり、 なり、 なり、 なり、 なり、 なり、 なり、 なり、	なり、作家活動に専念するために、一九七八年(昭和五十三年)三世教育の業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労権」を受賞した。 イハロ「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しく ー九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 ー九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七 した。ペンネームはこの後「三好京三」で通した。また、傑	十六回「直木賞」を受賞した。「直木賞」を受賞すると急に忙しくじ、それないたま、きわだって目につく)により「岩手県教育功労権」を受賞した。ペンネームはこの後「三好京三」で通した。また、僻	一九七七年(昭和五十二年)二月、小説「子育てごっこ」が第七堂」を受賞した。	賞」を受賞した。 地教育の業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労ためです。 をそうせんで、ペンネームはこの後「三好京三」で通した。また、傑	地教育の業績顕著(きわだって目につく)により「岩手県教育功労なないないないないです。それなどである。それなどの後「三好京三」で通した。また、僻	を受賞した。ペンネームはこの後「三好京三」で通した。また、僻



旧大森分校の校舎 「衣川ふるさと自然塾」「三好京三記念室」



旧大森分校の講堂に飾ってある

*

*参考文献

「野の色空の色」 編集委員会 編 ほくとう通信社『銀の色空の色 直木賞作家 三好京三とその世界』